

病虫害防除所情報

薬剤耐性イネばか苗病菌の発生状況

1. 薬剤耐性菌の発生状況

都内10地区の水田から採集したばか苗病発病株より病原菌を取り出し、ベノミル（ベンレート）剤およびトリフルミゾール（トリフミン）剤に対する薬剤耐性状況を調査した。

その結果、ベノミル剤に対しては全体の64.3%が耐性を獲得しており、本剤耐性菌の発生および分布が拡大していることが判明した（図参照）。

一方、今回の調査ではトリフルミゾール剤に対する耐性菌は認められなかった。

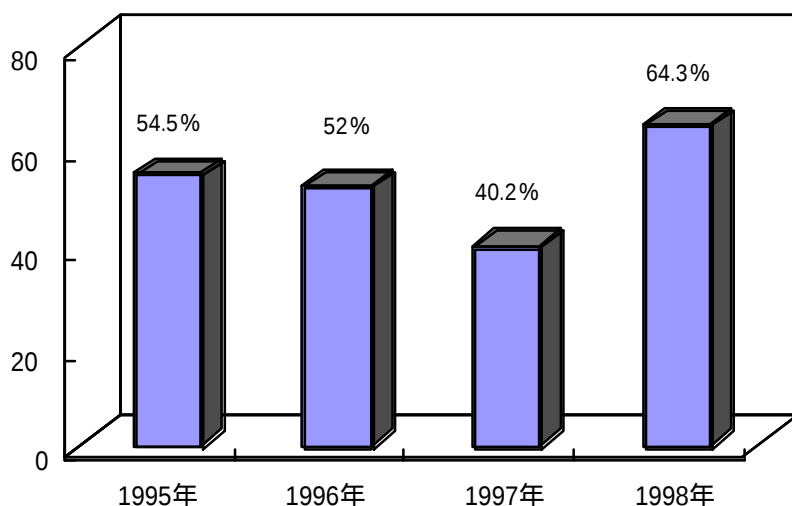


図 ベノミル剤耐性菌の年次比率

2. 耐性回避と防除対策

（1）ばか苗病菌は薬剤耐性が発達しやすいため、同一系統の薬剤を連用しない。

（2）ベノミル剤による種子消毒で効果が不十分な場合には、トリフルミゾール剤やその他の薬剤にきりかえる（表参照）。

（3）苗代で発生した場合は発病株を絶対に本田に持ち込まない。また、本田で発病株が見つかった場合には早期に抜き取る（二次伝染の防止）。

表 主な防除薬剤と使用方法

薬 剤 名	倍率および浸漬時間	主な対象病害
トリフミン水和剤・乳剤	30倍/10分、300倍/24 48時間	ばか苗病・ごま葉枯病・いもち病
トリフミンスターナ S E	30倍/10分、300倍/24 48時間	ばか苗病・ごま葉枯病・いもち病 もみ枯細菌病
ヘルシード水和剤・乳剤	20倍/10分、200倍/24時間	ばか苗病、ごま葉枯病、いもち病
ヘルシードTフロアブル	20倍/10分、200倍/24時間	ばか苗病、ごま葉枯病、いもち病
ヘルシードスターナフロアブル	20倍/10分、200倍/24時間	ばか苗病、ごま葉枯病、いもち病 もみ枯細菌病